

都道府県名	山口県	番号	35
ふりがな 学校名	やまぐちしりつしまじょうがっこう 山口市立島地小学校		

## 1. 研究の概要

### (1) 研究主題

自ら進んで学び、高め合う児童の育成  
～「伝え合い」のなかで、学びを深める姿を求めて～

### (2) 研究方法及び実施体制

主体的に学習に取り組み、互いに伝え合い、考えをもとにさらに深め高め合う姿を求めて、研究主題を『自ら進んで学び、高め合う児童の育成～「伝え合い」のなかで、学びを深める姿を求めて～』とした。研究の視点として、「話す」「聞く」「話し合う」に加えて、本年度は「読む」「書く」活動も加えながら、具体的な方策の改善を行っていくことにした。また、書いた自分の考えを相手に伝えるだけでなく、相手の意図をつかみながら聞き、それに対して共感したり、自分の意見を述べたりして聞き合う学級集団づくりをめざしたいと考えた。その根底となる子どもたちの言語力の育成のためには、読書が不可欠となる。そこで、今後どのような支援が必要であるかについて、少人数の特徴を生かしながら、国語力向上への取組を、「国語科」を中心として、学校生活全般にわたって研修を深めていくことにした。本主題の解明にあたっては、三つの方策『主体的に学ぶ力を育てる工夫』『伝え合いの基礎基本を定着させる場の工夫』『豊かな表現力を育てる工夫』を行った。

ブロック別重点目標では、昨年度までの「話す」「聞く」に加えて「書く」ことの重点目標も設定し、発達段階に応じて取り組むべき課題を明確にし、実践していった。

#### 主体的に学ぶ力を育てる工夫

- ・「一人学び」の質を高める授業づくり  
「ワークシート」、「振り返りカード」の作成及び活用
- ・学習課題づくりと教師の支援
- ・複式を踏まえた学習指導過程の工夫  
「学び方カード」の活用

#### 豊かな表現力を育てる工夫

- ・朝の会、帰りの会の工夫  
フリートークや詩の朗読、群読
- ・発表の場の設定  
全校朝会や集会、異学年との交流
- ・えんぴつタイム  
「書く活動系統表」を作成し、それを参考にした言葉遊び、詩づくり

#### 伝え合いの基礎基本を定着させる場の工夫

- ・話し合い活動の工夫  
「はっぴょうのしかた」(低)「話し合いのポイント」(中・高)の定着  
聞き合う学級集団づくり

#### その他の活動

- ・基礎基本の定着をめざした朝の学習
- ・読書活動の推進  
チャレンジ目標「読書をしよう」  
朝の読書タイム、家での10分間読書、読み聞かせ、図書館指導員との連携
- ・家庭や地域との連携  
地域への図書室開放、図書室便りの発行、児童文学作家による教育講演会
- ・国語力アンケートによる実態調査

## 2. 成果

- (1) 主体的に学ぶ力の向上
- (2) 書くことを楽しみにする児童の増加
- (3) 読書量の増加

詩の群読

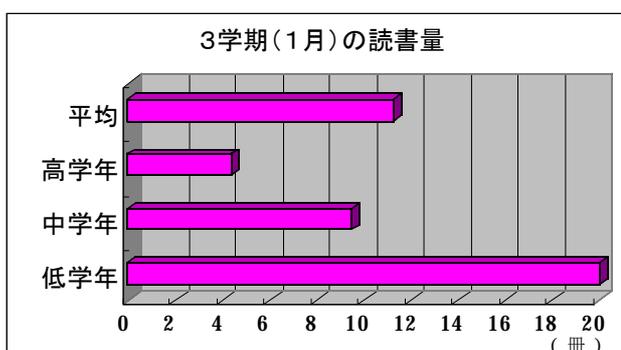
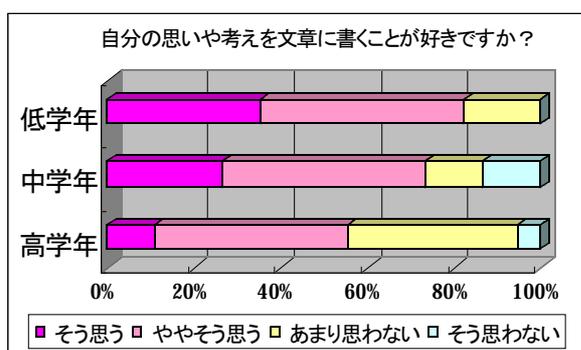


一人学び



## 3. 成果についての検証

- (1) 学習の進め方について基本型を作成し、学習リーダーによって授業が展開できるようにしたり、ワークシートを工夫したりして、「一人学び」の時間を確保した授業展開を行った。そして、各自で学習したことをもとに全体の場で意見を出し合い、高め合うような授業づくりを全学年で取り組んだことにより、主体的に学ぶ力が向上してきた。
- (2) 今年、新たに毎週金曜日の朝学の時間に、「えんぴつタイム」を設定したことにより、少しずつ書くことを楽しみにするようになってきた。
- (3) チャレンジ目標「読書をしよう」を掲げて、親子読書や1日10分間読書、図書室だよりの発行、図書委員会による読書ラリーなど、さまざまな取組を行った結果、本を好きな児童が多くなり、読書量もぐんと増してきた。
- (4) 全校児童50名を対象に、「国語に関する意識調査」を昨年度2回、今年度1回実施した。「話す・聞く」ことに関する意識は、低学年ほど割合が高く、高学年になるに従って減少している傾向は昨年度と同じだが、高学年の割合は昨年度を上回る結果になった。さらに、「書く」ことに関しては、昨年度は抵抗感がある高学年児童が70%を越えていたが、本年度は50%を越える児童が書くことに関する抵抗感が無くなったと回答している。読書に関しては、昨年度に引き続き70%を越える児童が「好きである」と答えている。昨年度の読書量の調査では、平日休日とも全く読まない児童が、30%以上いたが、家庭の協力を得ながら1日10分間読書を勧めることで、1ヶ月に全校平均で10冊以上読むようになり、高学年の児童の図書室利用も増えた。2年間の取組の結果、各領域で相応の成果が上がったことがアンケート調査からも伺える。



## 4. 課題とその改善

今後は、仲間との「伝え合い」を通して学びを共有し、お互いが高まり合うための教師の支援のあり方や、授業評価を活かした授業改善について研修を深めていきたい。また、「書く活動系統表」を参考にした魅力的な取組を行ったり、語彙力の育成を図るために家庭での読書活動の推進を継続して行ったりしていきたい。